

iPS細胞や胚性幹細胞（ES細胞）の安全性や倫理上の問題を巡る議論をよそに、再生医療は着実に進んでいる。先兵役を担うのは、人の体内にある体性幹細胞だ。万能細胞のiPS細胞と違って一部の細胞にしか育たないが、安全性が高く、倫理上の問題もない。既に白血球や心臓病の治療に使われ、脳梗塞などでも企業治験が始まっ

体性幹細胞 治験広がる



患者の脂肪組織から幹細胞を取りだして培養する（釧路孝仁会記念病院）

た。

理事長は話す。

北海道釧路市の釧路孝仁会記念病院では2015年12月から、脳梗塞などの治療に体性幹細胞を使う自由診療を始めた。患者のおなかの脂肪組織から脳の血管再生などを促す幹細胞を培養し、点滴で患者に戻す。「5年程度を治療し、まひなどが改善した」と社会医療法人孝仁会の齋藤孝次

北海道釧路市の釧路孝仁会記念病院では2015年12月から、脳梗塞などの治療に体性幹細胞を使う自由診療を始めた。患者のおなかの脂肪組織から脳の血管再生などを促す幹細胞を培養し、点滴で患者に戻す。「5年程度を治療し、まひなどが改善した」と社会医療法人孝仁会の齋藤孝次

リスク低く、産業化へ先行

クリニックの自由診療に国が目光らせる。同法はリスクを3段階に分け、治療計画の国への届け出を求めた。患者の体性幹細胞を使う場合はリスクが中程度の「第2種」とし、厚生労働相が認めた「特定認定再生医療等委員会」で審査し、厚生労働相に計画を出せば、iPS細胞の出番が減ること

一方、iPS細胞はリスクが最も高い「第1種」とされた。皮膚などの細胞に遺伝子を入れてつくるため、もともと体にある細胞とは区別が必要と判断だ。特定認定再生医療等委員会のほか、国

15年9月、JCRファーマの「テムセル」が承認された。患者以外の間節症の治療に使う治療を来年3月に始める。辻社長は「体性幹細胞はがん化しない利点がある」と話している。

（GVHD）の治療に使う。間葉系幹細胞は免疫拒絶が弱いとされ、多くの人に使いやすい。他社でも他人の幹細胞を使った臨床試験（治験）が10月から始まった。サンプイオは交通事故などで脳が傷ついた外傷性脳損傷の治療を始めた。森敬大社長は「他人の幹細胞は、大量生産してコストを下げやすい。必要に応じてすぐに使え、普及しやすい」という。

ツーセル（広島市）は、他人の間葉系幹細胞を膝などに注射して変形性関節症の治療に使う治療を来年3月に始める。辻社長は「体性幹細胞はがん化しない利点がある」と話している。